

令和6年度 御幸が原小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人権尊重の精神を基盤に、児童が多様な人々との「協働」を通して、自ら考え未来を創造し、たくましく生き抜く人間力の基礎を培う。

〈目指す児童像〉

「発見」：新しい知との出会いや初めての経験を通して、自分の可能性や仲間のよさを発見する児童

「挑戦」：明確な目標をもち、仲間と協力しながら困難な課題に取り組み、前向きに夢を追う児童

「創造」：日々の学びの中から、新しい自分や多様な価値観を生み出し、新しい時代を築く力をもった児童

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・様々な社会変化に柔軟に対応し、新しい時代を生きる力を育成するため、児童自らが考え行動しながら自己表現できる機会の創生と、仲間との「協働」を通して豊かな人間性を育む教育活動を展開する。
- ・教職員がそれぞれの強みと熱意、英知を集結し、家庭・地域と連携しながら活気に満ちた教育環境を醸成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）児童が個々の力を発揮するとともに、仲間と互いのよさを認め合いながら、新しいことに挑戦し伸びていく機会の創出に努める。
- （2）教職員は児童一人一人の良さを認め課題に寄り添いながら、「褒めて励ます指導」を通して児童との信頼関係の構築に努める。
- （3）地域社会・保護者・地域学校園内小中学校と連携し、目標を共有しながら、地域教育資源の効果的な活用を図ることにより、「社会に開かれた教育課程」の具現化に努める。
- （4）「児童が課題意識をもって主体的に取り組む授業」を通して基礎学力の定着を図るとともに、対話型の課題解決学習を取り入れながら、知識を活用する力の育成に努める。
- （5）教職員が組織力を生かして課題に対峙することで、個々の資質向上及び組織力の向上に努めるとともに、校務の改善や保護者ボランティアの効果的な活用を通して、教職員の勤務時間の適正化を図る。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

- ・各教科の指導内容との関連性を重視し、学年行事・特活・総合的学習等の時期や内容を設定する。
- ・地域社会の教育資源を効果的に活用し、学習活動の場の広がりや習得の深まりを目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が学校課題を共有し、方向性を明確にして解決に向かう学校組織の機能向上。 ○児童一人一人が自分の居場所をもち、仲間と認め合いながら、力を発揮できる場の創生。 ・地域社会への積極的な情報発信による信頼関係の構築と地域教育力の効果的な活用。 <p>【 学 習 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協働して課題解決に取り組む活動を通した、主体的に学びに向かう力の育成。 ・習熟度別学習や ICT の効果的な活用による学習内容の確実な定着と理解の深化の追究。 ・特別支援教育の充実による特性に応じた力の獲得。 ・「一人一人を生かし、自己肯定感を高める指導の工夫」の研究を通した授業の充実。 <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認め励ます指導を通した自己肯定感の涵養と、目標をもち活動に主体的に取り組む態度の育成。 ・規範意識の高揚と、多様性を理解し仲間と認め合いながら伸びていく集団の形成。 ・SNS、通信型ゲームを起因とする問題行動の早期把握と指導体制の構築。 <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が運動能力に関する自分の課題を知り、楽しみながら体力の向上を図る体育活動の充実。 ○「健康・安全」「食」に関する課題の把握と、実践力を伴う生活改善の意識の育成。 ・感染症拡大防止に関する正しい知識の理解と、生活習慣の確立。
--

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価									
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合80%以上</p>	<p>① 漢字の読み書きや計算力の定着を図るため、指導を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間を活用した必要に応じた学習支援の充実（各学年に応じたドリルやプリントなど） ・宮っ子ステップアップシートの活用 ・A1ドリルの活用 <p>② 家庭学習習慣の確立のための工夫を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みはらっ子家庭学習の手引き」の活用 ・「家庭学習強化週間」を年2回の実施する。 ・自主学習ノートの活用と啓発と保護者への協力依頼 <p>③ 学び合いや話し合い活動の場を効果的に取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの意図的な設定と工夫 ・話し方・聞き方の決まりの活用 <p>④ 学習活動に必要な効果的な場面でICT機器や図書を活用を図る。</p> <p>⑤ 漢字オリンピックテストの実施</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1171 1516 1294"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>88.3</td> <td>90.1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.7</td> <td>92.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・教職員ともに、目標値を上回っている。話し合い活動や学び合いの場の設定をして、主体的な学習に取り組めるように工夫する必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、朝の学習等の時間を活用し、基礎学習の定着を図る。 ・ICT機器を効果的に活用する。 ・よいノートを紹介しあうなどの活動を ・家庭学習頑張り週間を引き続き実施し、家庭学習の習慣を定着させる。 ・話し方・聞き方の決まりについての指導を行い、話し合いの基本的な学習態度の定着を図る。 ・漢字オリンピックテストを年2回実施し、主体的に復習に取り組ませていく。 ・「振り返りの言葉」のシートを各クラスで活用し、自らの学びを振り返り、かつ次時への学習につなげていくようにする。 		R5	R6	児童	88.3	90.1	教職員	95.7	92.9
	R5	R6											
児童	88.3	90.1											
教職員	95.7	92.9											

1-(2)
豊かな心を
育む教育の
推進

A2 児童は、思いやりの心
をもっている。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
80%以上

- ① どの子にも居心地のよい学級づ
くりを目指す。
・Q-Uテストの実施、事例研究会
実施、活用
・授業や日常生活において、望まし
い言葉づかいや友達を敬称(～さ
ん)で呼ぶ指導を更に定着させ、
自他を大切に思う心や態度を養
っていく。
- ② 道徳の授業を通して、自他を大
切に思う心や態度を養い、日々の
生活に生かす力を育成する。
・学年内で道徳の授業の教材を共
有し、道徳の授業を充実させ、授
業後に学んだことをふり返るこ
とができるようにする。
・年間1回、授業参観時に道徳の授
業を実施する。

B

【達成状況】

	R5	R6
児童	91.0	90.1
教職員	100.0	92.9

保護者の肯定的回答は91.7%で、昨年と比
べて、若干上がった。

地域住民の回答では、昨年の94.1%から
100%に上がった。

児童は0.9ポイント、教職員は7.1ポイ
ント下がった。下がった原因を明らかにし
ていきたい。

【次年度の方針】

・今まで以上に相手の気持ちを考えた行動
や、時と場に応じた言葉遣いについて家庭
と連携して指導していきたい。

【次年度の方針】

A3 児童は、目標に向かっ
てあきらめずに、粘り強
く取り組んでいる。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
85%以上

- ① 各教科の授業や各種検定等
において、児童が目標をもって取り
組む機会を設けるとともに、目標
の達成に向けて努力している児
童を称賛する。
・各種検定等における、各学年の目
標を児童に提示し、体育の授業や
強化期間中に意欲的に取り組め
るようにする。
・「めざせスーパーみはらっ子」へ
の取組に意欲的に取り組んだ児
童へ賞状とメダルを贈呈し賞讃
する。
- ② 学級活動や道徳の授業をと
おして目標をもって粘り強く取
り組むことの大切さに気付かせる。
・学級活動において学校行事に向
けた目標を立てたり、道徳の授業
において粘り強く取り組むこと
のよさを考えさせたりする。
・学級活動や道徳の授業において、
行事のふり返りを行い、目標をも
って粘り強く取り組むことの
大切さに気付かせるとともに、そ
うした実践に向けた意欲を高める。

B

【達成状況】

	R5	R6
児童	86.4	89.2
教職員	95.7	89.3

保護者の肯定的回答は84.4%で、昨年の
80.7%から3.7ポイント上がった。

教職員は、6.4ポイント下がっている。下
がった原因を明らかにしていきたい。

【次年度の方針】

・「めざせスーパーみはらっ子」の取組み
をより一層充実させ、教職員でも共通理解
を図り積極的に活用していく。

1- (3)
健康で安全な生活を
実現する力を
育む教育の
推進

A 4 児童は、健康や安全に
気を付けて生活してい
る。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
80%以上

- ① 昨年度の生活についての実態調査等をもとに基本的生活習慣について（特に睡眠時間・食生活）、家庭との連携を図り啓発や指導をする「ノースマホ・ノーゲームデーにおけるスマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言 ver. 2」を活用したルール作り…養護教諭との連携
- ② 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。
- ③ 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。
- ④ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。

A

【達成状況】

	R5	R6
児童	92.5	92.6
教職員	95.7	78.6

児童の肯定的回答は、数値指標を大きく上回ったが、教職員の肯定的回答は、数値指標、前年を下回った。

【次年度の方針】

・①の歯みがき朝ごはんのチェックは、学校園でも取り組んでいく。②についても継続を図る。③については、各教科等との関連については、今年度はできなかった。マナー週間（地域学校園）、残食を減らそうというイベント等については、学校園でも継続して行っていく。

・④については、今年度接触事故が多かったので、次年度は数値化する。今後も交通安全教室、自転車安全教室、避難訓練等を計画的に実施していく。

1- (4)
将来への希
望と協働す
る力を育む
教育の推進

A 5 児童は、自分のよさや
成長を実感し、協力して
生活をよりよくしようと
している。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
児童85%以上
教職員90%以上

※地域学校園の重点項目「自己肯定感を高める」について手立てを入るとよい。

- ① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、協働的な活動を通して、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。
- ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。
- ③ キャリアパスポートを効果的に活用し、担任や保護者からコメントを記入し、児童にフィードバックすることで、自分の成長を振り返る場面を設ける。マッチョマンカードもキャリアパスポートファイルに綴じる。

B

【達成状況】

	R5	R6
児童	87.3	90.7
教職員	95.7	100

児童・教職員の肯定的回答は、数値目標を上回った。

【次年度の方針】

・各項目についての方針については、それぞれ数値目標を達成しているため継続していく。

2- (1)
グローバル
社会に主体
的に向き合
い、郷土愛
を醸成する
教育の推進

A6 児童は、英語を使って
コミュニケーションして
いる。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
85%以上

- ① 外国語活動(英語活動)を通じ
て、言語や文化について体験的に
理解を深め、積極的にコミュニケ
ーションを図ろうとする態度を
育成する。
- ② 日常的に英語のあいさつやゲー
ムを取り入れたり、英語の絵本を
図書室に置いたりして、英語に親
しむ環境を整える。

B

【達成状況】

	R5	R6
児童	78.6	84.2
教職員	91.3	85.7

児童の肯定的割合は 84.2%で、やや数値
指標を下回ったが、昨年度より増加した。
コミュニケーションを取り入れた授業形態
の取り入れの成果が表れている。

【次年度の方針】

- ・担任とALTが連携を図れるように打合せを
十分に行ったり、教材研究を行ったりし、児
童の主体的な活動を促されるようにしどう
の充実を図る。
- ・コミュニケーション活動を取り入れた授
業形態を工夫する。
- ・振り返りカードを各クラスで活用し、自ら
のコミュニケーションについての態度を振
り返るようにする。評価にも生かす。

A7 児童は、宇都宮の良さ
を知っている。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
85%以上

- ① 生活科、道徳、社会科、総合的な
学習の時間(宇都宮学)の授業や、
市内や地域での校外学習等にお
いて、学習内容に関連させながら
児童が身近な地域や宇都宮市や
御幸ヶ原町の良さに気付く指導
に努める。
- ② 教師自身が宇都宮市や御幸ヶ原
町の歴史、文化、伝統産業、特産
物等について理解を深められる
よう努める。
- ③ 宇都宮に関わる図書資料を図書
室に置いたり、新聞記事を活用し
たりして、宇都宮に親しむ環境を
整える。

B

【達成状況】

	R5	R6
児童	83.1	84.8
教職員	87.0	78.6

児童はほぼ指標に近づいたが、教職員は
昨年度よりも 8.4%下回った。今後もでき
るだけより多くの活動を設定していく必要が
あると考える。

【次年度の方針】

- ・「宇都宮学」の内容を全学年において指導
できるよう、引き続き年間指導計画の整備
をする。
- ・地域の行事等を活用しながら、児童が御幸
ヶ原町や宇都宮の良さに身近に触れること
ができるようにする。

2- (2)
情報社会と
科学技術の
進展に対応
した教育の
推進

A8 児童は、デジタル機器
や図書等を学習に活用し
ている。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
85%以上

- ① 児童がコンピュータや情報通信
ネットワークなどの情報手段に
親しみ、適切に活用する能力を育
成できるよう、授業において積極
的にICT機器を活用する。
- ② 各学年のその時期の授業内容と
の関連に配慮した教育図書の活
用に努める。
- ③ ICT機器の活用研修を計画的に実
施する。

B

【達成状況】

	R5	R6
児童	85.2	88.5
教職員	100	92.9

児童・教職員共に肯定的回答は、数値指標
を上回った。

【次年度の方針】

- ・前年度の実践研究を成果を生かし、学年の
発達段階を踏まえながら、学習活動及び学
業指導の中で、有効な活用方法を模索する。
- ・授業実践で得られた効果的な手法や学習
形態は、全体で共有できるように研修のテ
ーマに掲げたり、短時間で学び合える「ミニ
ワークショップ」などを取り入れたりする。
- ・ICT機器との関わり方について、家庭にも
啓蒙し、連携を図りながら活用できるよ
うにする。

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① 各教科や領域、児童会活動における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・生活科、理科、社会、道徳、家庭科の学習との関連、5年総合的な学習「SDGsについて学ぼう」での探究学習を取り入れる。 ・健康委員会の食育推進活動</p> <p>② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>③ 過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。</p> <p>④ SDGs に関する図書資料や掲示物のコーナーを作り、児童の関心を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 174 1513 293"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>90.4</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>65.2</td> <td>64.3</td> </tr> </table> <p>児童は指標数値を上回っているが、教職員の肯定的回答の割合は数値指標を下回っている。また、ともに昨年度よりもわずかに数値が下回った。 【次年度の方針】 ・各教科や領域における環境問題や防災について、生活に結び付けた学習内容の見直しを行う。 ・「持続可能な社会」についての内容を全学年において指導できるよう、年間指導計画の整備をする。 ・発達段階に応じて「持続可能な社会」について関心を持たせていく。</p>		R5	R6	児童	90.4	89.5	教職員	65.2	64.3
	R5	R6										
児童	90.4	89.5										
教職員	65.2	64.3										
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・定期的に校内支援委員会を開催する。 ・「チームみはらの特別支援教育」の推進</p> <p>② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別的教育支援計画を作成し、それに基づいて合理的な配慮を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 891 1513 1010"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>91.3</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>教職員が情報共有をしながら、チームで前向きに取り組むことができています。引き続き一人一人のニーズに合った支援を続けていきたい。 【次年度の方針】 ・年度初めに個別のケース会議を丁寧に行ったことで、関係職員同士での共通理解がより図れた。次年度も同様に、組織的に丁寧な支援を引き続き行っていきたい。</p>		R5	R6	児童			教職員	91.3	100
	R5	R6										
児童												
教職員	91.3	100										
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① いじめの早期発見・早期対応のためのアンケートを実施し(年4回)、気になる児童への事後指導を行う。</p> <p>② いじめゼロ強調月間(5月・9月)の取組を実施し、いじめは決して許されないことを理解させる。 ・いじめゼロ標語を作成・掲示し、いじめゼロに対する意識の涵養を図る。 ・計画委員会の活動により、いじめ撲滅に対する児童の意識を高める。</p> <p>③ いじめ対策における学校での取組みを、学校だよりやさくら連絡網などに掲載し、保護者に伝え、連携を図る。</p> <p>④ 人権週間に全校児童で人権標語を作成・掲示し、児童の人権感覚と意識の涵養を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1435 1513 1554"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>97.0</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>73.1</td> <td>78.0</td> </tr> </table> <p>児童の肯定的回答は若干下がったが 95%以上であった。 保護者の肯定的回答は 78.0%で昨年と比べると 4.9 ポイント上がったが、依然として数値目標を下回っている。 地域住民の肯定的回答は、80.0%で昨年と比べて 13.3 ポイントも下がってしまった。 【次年度の方針】 ・アンケートを基にした教育相談を丁寧に行うだけでなく、相手の気持ちを考えて行動できるような指導をしていきたい。</p>		R5	R6	児童	97.0	96.6	保護者	73.1	78.0
	R5	R6										
児童	97.0	96.6										
保護者	73.1	78.0										

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせスーパーみはらっ子」カードの活用 ・当番活動や係活動など、児童が活躍する場を多く設定する。 ・学校行事や学級活動等で児童が互いに認め合う場を多く設定する。 <p>② 教育相談、アンケート、QU調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。</p> <p>③ いじめアンケートを活用し、学校生活への不安をかかえている児童の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>④ 児童の状況を把握し、登校につなげられそうな場合には、ライジングルーム等の校内資源を活用し、学校での児童の学びを支援する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 174 1513 297"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>95.5</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>保護者の肯定的回答は90.1%で、昨年と比べると3.5ポイント上がった。</p> <p>教育相談、アンケート、QU調査等を行い、配慮が必要な児童を早期に発見し、全教職員で情報を共有し対策に当たることができている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も学級内で児童同士が認め励まし合う機会を設定するとともに、「めざせ！スーパーみはらっ子」カードを活用するなど、担任も認め励ます指導に努め、児童一人一人の自己肯定感を高める学級経営をおこなっていきたい。 ・職員会議後の児童の情報交換会を生かし、学校全体で組織的に取り組んでいきたい。 		R5	R6	児童	95.5	95.4	教職員	100	100
	R5	R6										
児童	95.5	95.4										
教職員	100	100										
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合80%以上</p>	<p>① 児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めるとともに、児童会・委員会活動など児童の主体的活動を積極的に展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会を中心とした委員会活動の活性化 ・学級での活動の充実 ・ふれあい班活動の充実 <p>② 異学年・幼児・高齢者・地域・学校支援ボランティアなどとのふれあいの機会や交流活動の充実を図る。</p> <p>③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用 <p>④ 縦割り班清掃については、新システムになったので、適宜教職員で振り返り、より良い活動ができるように改善していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1077 1513 1200"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>93.7</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.2</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>児童・保護者の肯定的回答は、数値目標、前年共に大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③は、継続とし、④については、清掃担当者の仕事・学校の消耗品の管理仕事など担当者の仕事や、保管場所などをはっきりさせて改善を図る。 		R5	R6	児童	93.7	96.6	保護者	86.2	100
	R5	R6										
児童	93.7	96.6										
保護者	86.2	100										

4- (1)
教職員の資
質・能力の
向上

A14 教職員は、分かる授業
や児童にきめ細かな指導
を行い、学力向上を図っ
ている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答割合
80%以上

※地域学校園の重点目標「語
彙を増やす」活動が入るとよ
い。

- ① 学校課題に沿って指導目標を
明確にし、分かる授業を目指して
指導法の工夫や教材教具の工夫
に努める。
・学習課題、「めあて」の明確化
・学習の成果を実感でき、次の学習
に活かす振り返り活動の工夫
・分かりやすい板書の工夫
・話し合い活動の充実
・個に合わせたICT機器及び図書
の活用
- ② TTや少人数・習熟度別による
指導を充実させ、成就感を味わわ
せるとともに補充のための学習
を充実させる。(3学年～)
- ③ 朝の学習の時間の担任以外の
教職員の支援を弾力的に行う。
(全学年)
- ④ かがやきルームでの個に応じ
たきめ細やかな指導により、安心
して学習に取り組めるよう支援
する。
- ⑤ 語彙を増やす取り組みに努め
る。
・朝の読書の時間の確保
・家庭学習での音読の奨励
・辞書の活用

【達成状況】

	R5	R6
児童	95.2	96.9
教職員	100	100

児童・教職員ともに指標数値を上回って
いる。指導法、教材教具の工夫や、指導形態
の工夫の成果が表れている。
【次年度の方針】
・次年度も、分かる授業を目指して指導法の
工夫や教材教具の工夫に努めるとともに、
TTや少人数・習熟度別による指導を充実
させる。
・引き続き、担任とかがやきルームで連携を
図り、チームで支援できるようにする。
・朝の学習を有効に活用し、基礎学力の定着
を図る。
・「振り返りの言葉」のシートを各クラスで
活用し、自らの学びを振り返り、かつ次時へ
の学習につなげていくようにする。

4- (2)
チーム力の
向上

A15 学校に関わる職員全員
がチームとなり、協力し
て業務に取り組んでいる。
【数値指標】
⇒教職員の肯定的回答割合
85%以上

- ① 「チームみはら」の合言葉のも
と、学校の諸課題への対応や、学
校行事の準備・運営等に、教職員
が相互に助け合いながら一丸と
なって取り組むよう努める。
- ② 教職員の協働性を高めること
に視点を置き、教職員の得意分野
や持ち味が生きる組織運営に努
めるとともに、困難を感じる業務
について助け合える雰囲気をも
大切に、気軽に相談し合う。

【達成状況】

	R5	R6
児童	/	
教職員	95.7	100

教職員の肯定的回答は、数値指標、前年を
上回った。
【次年度の方針】
・児童指導における課題は、早期発見、早期
解決となるように「ケース会議」を適宜に位
置付けて対応する。
・職員会議や学年会で話題として挙げ、児童
の実態について共通理解を図り、学校全体
で課題解決へ当たる。

4- (3)
学校における働き方改革の推進

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。
【数値指標】
⇒教職員の肯定的回答割合 80%以上

- ① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。
- ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。
- ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。
- ④ 教務主任を中心に業務改革プロジェクトを組織し、年度途中であっても教育課程や校務分掌を見直し、勤務時間内の児童や授業にかかる時間等の充実を図る。
- ⑤ 業務改善に当たっては、先行実践事例等を実情に応じて積極的に取り入れ、学年主任会や学年会から、改善に向けた職員の考えを吸い上げ、共有し試行する。
- ⑥ リフレッシュ日の積極的運用を図る。

A

【達成状況】

	R5	R6
児童	/	
教職員	69.6	75.0

教職員の肯定的回答は、前年度に比べ、上昇したものの数値指標を下回った。

【次年度の方針】

・職員の抱えている課題意識を共有し、各種教育活動の精選を焦点化して行い、⑤、⑥の取組についてさらに推進する。内容の縮小、削減に取り組む。

・各種会議等を実施する際は、以下の2点に努める。

①児童の下校完了時刻を共通理解し開始時刻を守れるようにする。

②できるだけ内容の事前把握に努め、終了時刻を設定することで効率的な時間活用に努める。

5- (1)
全市的な学校運営・教育活動の充実

A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。
【数値指標】
⇒教職員・保護者の肯定的割合 80%以上

- ① 地域学校園各部会・分科会毎に今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。
・各部会、分科会の進捗状況について情報共有する。
- ② 乗入れ授業や引継ぎの充実を図り、中1ギャップの緩和を図る。

B

【達成状況】

	R5	R6
保護者	81.0	82.6
教職員	91.3	96.4

教職員・保護者の肯定的回答は、数値指標、前年度を上回った。

【次年度の方針】

・各部会、分科会ごとに可能な小中一貫の取組みを進めていく。

・乗り入れ授業を計画的に実施し、児童の中学校進学への安心材料とする。

5- (2)
主体性と独自性を生かした学校経営の推進

A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。
【数値指標】
⇒保護者・地域住民の肯定的割合 85%以上

- ① 御幸が原小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。
- ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。
- ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。
- ④ 家庭学習強調週間を設け、学力向上のために家庭と連携を図る。

B

【達成状況】

	R5	R6
保護者	91.2	91.0
地域住民	93.8	100

保護者・地域住民の肯定的回答は、数値指標を大きく上回り、前年度と同程度及び上回った。

【次年度の方針】

・地域協議会を開催し、学校と地域の関係性を保ちつつ、関連のある行事において協力し合う。

・年度更新時、学年間、分掌間で伝達・引継ぎを十分に行い、地域人材と学習活動を有効に関連させる。

5- (3)
地域と連携・協働した学校づくりの推進

6- (1)
安全で快適な
学校施設
整備の推進

A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

⇒教職員・保護者の肯定的回答割合
保護者 85%以上
教職員 90%以上

- ① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。
- ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。
- ③ 感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ）対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。

【達成状況】

	R5	R6
保護者	88.3	91.7
教職員	95.7	100

教職員・保護者の肯定的回答は、数値指標、前年を上回った。

【次年度の方針】

・主な具体的ななど仕組みについては、各項目とも引き続き継続とする。

6- (2)
学校のデジタル化推進

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。

【数値指標】

⇒教職員の肯定的割合
教職員 85%以上

- ① 学習に必要なICT機器を整え児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段適切に活用する能力を育成できるように、授業において週2回以上の活用を目指し、ICT機器の活用法を発展させる。
- ② 学習に必要な図書等を整え、学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、教育課程に沿った学校図書館の環境整備に努める。
- ③ 児童の読書意欲を喚起するために、図書室内外の展示コーナーを工夫する。

【達成状況】

	R5	R6
児童	/	
教職員	87.0	92.9

教職員の肯定的回答は、数値指標、前年度を大きく上回った。

【次年度の方針】

・学級や学年間でICT機器の活用事例の情報交換を行い、教職員の経験値を向上させる。
・情報主任を中心に職員のニーズに合わせた校内研修を実施し、授業での有効利用を促進する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等
本校の特色・課題

B1 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】

⇒児童・教職員・地域の肯定的回答割合
児童 80%以上
保護者 80%以上
地域 80%以上

- ① 児童会（計画委員会）が中心とする全校児童が参加できるあいさつ運動を実施する。
・学級活動や道徳の授業を通して、あいさつすることの意義について考えさせる機会をもつ。
・「めざせスーパーみはらっ子」カードの活用
・学校だより・学級懇談会であいさつ励行を保護者に伝える。
・校内で「あいさつ団」を募集し、自主的にあいさつができる児童を育てていく。
- ② 地域連携及び地域学校園で共通課題として、あいさつ運動を展開する。

【達成状況】

	R5	R6
児童	92.2	92.9
教職員	91.3	85.7
保護者	78.6	79.5

地域住民の肯定的回答は86.7%で昨年と比べると2.8ポイント下がった。

【次年度の方針】

・あいさつは本校児童の「よさ」の一つである。だからこそ、学校内だけでなく、地域でも時と場に応じたあいさつを進んでしていこうとする意識をより高めていけるような指導をしていきたい。

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 80%以上 児童 80%以上 教職員 80%以上</p>	<p>① 「みはらのきまり」をもとに全職員が同じ姿勢で指導や支援にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みはらのきまり」や「めざせ スーパーみはらっ子」との関連をさせ、月の生活と健康目標を行動目標として設定し、校内放送を活用しながら、周知と振り返りの徹底を図る。 ・重点指導内容を適宜取り入れ、強調週間として全校体制で指導に当たれるようにする。 ・全児童がきまりやマナーを守って生活できるよう、委員会の活動をより充実させる。 <p>② 全職員の共通理解の下、全校体制で組織的に支援に当れるよう、報告及び情報交換を確実に行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の情報交換会や児童指導（毎月）の実施。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 174 1513 297"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>94.0</td> <td>92.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>91.3</td> <td>67.9</td> </tr> </table> <p>児童の肯定的回答は、数値指標を大きく上回ったが、教職員の肯定割合は、数値指標、前年を共に大きく下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組については、引き続き継続して行い、改善を図る。 		R5	R6	児童	94.0	92.0	教職員	91.3	67.9
	R5	R6									
児童	94.0	92.0									
教職員	91.3	67.9									
<p>B3 学校は図書室を中心に児童に、本の楽しさを味わわせる活動に取り組んでいる</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 読書意欲の向上のための環境整備・指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの充実 ・朝の読書タイム ・読書月間の実施（委員会） ・お話し会 ・家読のすすめ【親子読書等】 ・読書記録の活用 ・必読図書の充実 ・読書マッチョマンカードなどの多読賞 ・新刊本、お薦め本の紹介 ・本の予約やリクエストカードの活用 ・市立図書館の活用 ・図書館だよりの発行 ・地域学校園との連携した取組（「鬼怒の本棚」の発行、共通のマナーやお話給食など） <p>② 各種お便りを通じて、読書に親しむ児童の様子を発信することで、校内での読書活動への取組を児童・保護者に意識化させると同時に、より本に親しもうとする雰囲気醸成を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 828 1513 952"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>74.1</td> <td>87.3</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>54.8</td> <td>85.8</td> </tr> </table> <p>児童・保護者の肯定的回答は、数値指標、前年度を大きく上回った。学校内において児童の読書環境の整備は充実し、児童の回答率は、向上している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を中心として読書に親しむための企画を継続し、児童が本に親しむ場を設定する。 ・「お話給食」とも連携し、本のよさを味わう機会とする。 		R5	R6	児童	74.1	87.3	保護者	54.8	85.8
	R5	R6									
児童	74.1	87.3									
保護者	54.8	85.8									
<p>B4 学校は、人権尊重及び自他の生命や存在を大切に育てる児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合 児童 90%以上 保護者 85%以上</p>	<p>① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施 ・年間35時間、道徳の授業の実施 ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ・教育相談週間の実施 <p>② 人権教育を全校体制で推進し、自他を大切に思う心や態度・実践力の育成に努めるとともに、教職員対象の人権教育ワークショップを行い、教職員の人権意識も高めていく。</p> <p>③ 児童の困り感や保護者からの相談に対して、きめ細やかな対応を行っていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1606 1513 1729"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>94.0</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.6</td> <td>85.8</td> </tr> </table> <p>児童・保護者の肯定的回答は、数値指標、前年共に上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組については、引き続き継続して行う。 		R5	R6	児童	94.0	95.0	保護者	84.6	85.8
	R5	R6									
児童	94.0	95.0									
保護者	84.6	85.8									

	<p>B5 学校は、「自分を伸ばし、仲間と伸びる児童」を育てる教育活動を工夫している。</p> <p>【数値指標】 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答割合 80%以上</p>	<p>① 児童の発想を生かした児童会活動や、仲間と力を合わせて取り組む学校行事や学年・学級行事の内容充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動、委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動 ・ドッジボール大会、長縄大会の実施 ・児童によるスローガン募集と運動会運営 ・児童集会の内容充実 ・チャレンジギネス等の活動 <p>② 授業の中に「学び合い」の場面を設定し、仲間と共に成長する姿勢を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 174 1513 297"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>87.0</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>保護者・地域住民ともに指標数値を上回っている。保護者に関しては昨年より3%増加し、バリエーションに富んだ取り組みの成果が表れている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、児童の発想を生かした児童会活動や、学校行事、学年行事を充実させていく。 ・スーパーみはらっ子や漢字オリンピックなどの取り組みを引き続き行う。 		R5	R6	保護者	87.0	90.0	地域住民	100	100
	R5	R6										
保護者	87.0	90.0										
地域住民	100	100										

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ほとんどの項目で、目標とした数値目標を上回った。今年度は、重点目標を「一人一人を生かし、自己肯定感を高める」とし、本校の児童指導の総合的な取組である「スーパーみはらっ子」の活動を核とし、一人一人に寄り添い、自己肯定感を高められるよう努めた。その結果、特に「いじめがゆるされないことを熱心に指導」、「一人一人を大切にし、児童がともに認め合うクラスをつくっている」、「先生方は困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」、「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」の児童の肯定的回答は、いずれも95%を超えた。
- ・「きまりやマナーを守って生活している」では、児童の肯定的回答は、高いが、教職員や保護者の肯定的回答が低かった。これについては、今後も定めた目標について、改善が見られるよう児童への周知と振り返りの徹底を図る。
- ・保護者の肯定的回答が、児童に比べて数値目標は上回っているものの、低い数値になっていることに関しては、今後も学校や学級での教職員の取組や思いについて、学校だより、学校ホームページ、学級懇談会等で伝えることで学校と保護者が児童のよりよい成長を目指すという共通の目標を目指すように改善を図る。
- ・教職員の「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」では、昨年度よりも肯定的回答は上がったものの、数値目標は下回った。業務改革については、全教職員が当事者意識をもち、個々の意見を出し合い、試すことにより「児童と向き合う時間」を確保し、授業改善や力を注ぎたいことへ注力し、教師としての力を高めるなど、「目指す教師像」へ近づく自己研鑽の時間の創出にも努める。
- 教育目標である「児童が多様な人々との協働を通して、自ら未来を想像し、たくましく生き抜く人間力の基礎を養う」の「多様な人々との協働活動」については、地域協議会の一部である学校支援ボランティアを始めとする様々な方々との連携協力は欠かせなかった。今年度も様々な教育活動の場面で、連携協力を行うことで実り多い豊かな教育活動を行うことができた。今後も、さらに学校の取組を理解して頂きながら、充実させていく。

7 学校関係者評価

- ・学校が必要としていることをさらに地域へ要望して頂きたい。
- ・結果の公表について経年変化だけでなく、市の指数と比較したい。
- ・地域住民、教職員の回答では、100%の肯定的回答があるので、児童、保護者の回答も是非とも100%の回答を目指して頂きたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 次年度は、「一人一人を生かし、自己肯定感を高める指導の工夫」のビジョンのもと、教職員が自らの資質向上に努め、「自己肯定感を高める指導の工夫」、「主体的で対話的な深い授業づくり」について校内研修を中心に共通理解を図り、日々の実践において、児童にとって「分かる、できる、楽しい授業」を目指す。また、昨年度より継続の校内研修サポート事業では、授業の中での「個のみとり」について、教職員が見識を深め、日常の授業にも活かすことで、さらなる授業改善を目指す。
- ・きまりやマナーについては、「めざせ スーパーみはらっ子」との関連を図り、月の生活目標を行動目標として設定した

り、強調週間として全校体制で指導に当たったりし、よくできたことへ焦点化することにより成果が見られた。月半ばでの校内放送を活用し、個々の到達状況について全校児童へ振り返りの機会を設けるなどして、全職員が同一歩調で指導していけるようにする。

- ・ 1人1台端末は、次年度以降も学年学級の実態に応じて様々な形で活用し、全職員で情報を共有しながらできることを進めていく。同時に引き続き、本の楽しさに触れる機会も増やしたり、図書資料を効果的に活用して調べ学習を進める方法についても指導したりしていく。
- ・ いじめ・不登校については、学校から学校教育に関わる様々な情報を発信し、学校・家庭・地域が連携をより強化し対応していく。特に不登校に関しては、別室登校支援教室「みはらライジングルーム」の学習支援ボランティアの活用等による組織・効果的な運用や不登校傾向児童及び家庭への積極的関わりが功を奏し、改善の見られる児童も複数見られた。今年度の取組の成果から、引き続き早期支援に努める。また、児童がより安心し、居がいのある学校・学級を目指し、児童一人一人に寄り添った温かな関わりに努め、いじめや新たな不登校を生み出さないようにする。
- ・ 長寿会をはじめとする地域諸団体等との連携や学校支援ボランティアの方々の協力により様々な教育活動を進めていくことで、多様な考えや自分のよさに気づき、自他の大切さを認識する機会を確保し、教育活動の一層の充実を図る。また、学校の抱える諸課題の解決に向け助力が必要とされる場面では、地域協議会等に積極的に発信し、協力を得て、解決を図る。